

# 石神中学校だより



第13号

発行日：平成30年3月16日（金）

## 【教育目標】

- ・自ら学習する生徒
- ・正しく判断できる生徒
- ・健やかな生徒

発行者 校長 高橋知宏

## 石神中学校第71回卒業式に寄せて

3月13日（火）、第71回石神中学校卒業証書授与式が挙行され、103名の卒業生が本校を巣立ちました。日々成長し、学習面でも、部活動面でも活躍してくれた卒業生であったと思います。



### （卒業式式辞抜粋）

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今皆さんにお渡しした証書は小学校と合わせて九年間の義務教育が終了した証です。同時に、皆さんの三年間のたゆまない努力はもちろんですが、保護者の方々を始めとする地域の皆様の願い、そして、本校教職員の期待が込められているのです。皆さんにはこの一枚の卒業証書の重みをしっかりと受けとめて欲しいと思います。

皆さんと石神中学校で過ごしたのは一年間でしたが、皆さんの出会いはまさに一期一会とも言うべき、私の心に深く刻まれた一年間でした。三年生に進級してすぐに行われた修学旅行では、

皆さんの整列の素早さと元気な挨拶、鎌倉・東京班別自主研修での時間を守って友人と協力し合いながら取り組む研修姿勢に感動を覚えました。学習面や部活動の面では、切磋琢磨しながらお互いを高めていくという姿勢で、素晴らしい結果を残しました。生活面では規律を守り落ち着いた生活態度でした。皆さんの様々な面での活躍は学校全体を大いに盛り上げました。特に文化祭。各学級が心を一つに美しいハーモニーを奏でた合唱コンクールや皆さんが全校生をリードし色画用紙約24万枚を貼り合わせて完成させたビッグアートは、皆が心を一つにして協力し合えば、素晴らしい力が發揮できるという報徳仕法の中の一円融合の精神を行動で示す立派なものでした。

さて、東日本大震災・原発事故から七年が経ちました。あのとき、幼かった皆さんも、今、こうして卒業の日を迎えました。今年、ピョンチャン冬期オリンピック、フィギュアスケート男子で66年ぶりの連覇を成し遂げた羽生結弦選手は、仙台市で練習中に被災し、避難所生活を送っていた当時を振り返り、「あれ以上苦しいことも悲しいことも不便なこともない。でもつらいときでも乗り越えられるきっかけになった。震災があったから今がある。」と語っています。皆さんにとっても、これから長い人生では、失敗したり挫折したりすることもあるでしょう。しかし、たとえ失敗しても、あの経験が必ずやその糧となると信じます。一つ一つ困難を乗り越えていくことによって、皆さん自身が、他の誰かに勇気を与えることのできる存在になってください。

今日は、中学校生活最後の日であると同時に、さらに高いところを目指すための旅立ちの日でもあります。そこで、皆さんの晴れの門出にあたり、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

一つ目は、「人生とは邂逅である」という言葉です。この意味は、人の一生は出会いの連續であり、その一つ一つの出会いを大切にすることが人間としてより成長し、豊かな人生を送ることになるのだということです。皆さんにはこれまでにも多くの出会いがあったことだと思います。先生や友人との出会い、感銘を受けた物語の主人公との出会いなど多くの出会いがありました。これから先もさまざまな出会いがあると思います。生涯の友となる人、目標となる人など、多くの人々との出会いや自分の人生を決定するような出来事との出会いもあると思います。それらのかけがえのない一つ一つの出会いを大切にし、出会いから多くのことを学び、これから長い人生を力強く充実したものにしていってほしいと願っています。

二つ目は、「深い思いやりと謙虚な心を持つ」ということです。人間は人とのつながりをもって生活している存在であり、私たちは他人とのかかわりの中で生活しています。それゆえ、私たちは他人に対して深い思いやりの心と謙虚な気持ちが必要になってくるのです。思いやりのあるところには感謝や奉仕の気持ちがわき、そこから人と人との強い結びつきが生まれてきます。さらに、謙虚な気持ちで他人の言葉に耳を傾け、よくかみしめて自分のものにすることにより、自己の成長をより確かなものにしてほしいと願っています。

皆さんには、前途洋々たる未来があります。未来に大いなる夢を抱き、その夢の実現に向かって大きく羽ばたいてほしいと思います。



<在校生代表送辞>  
渡邊みちるさん



<卒業生代表答辞>  
古澤勇吾君